



ありたい姿から始める農村RMO



20260911中央研
弘前大学平井太郎

ありがたい未来への行き着き方を探る

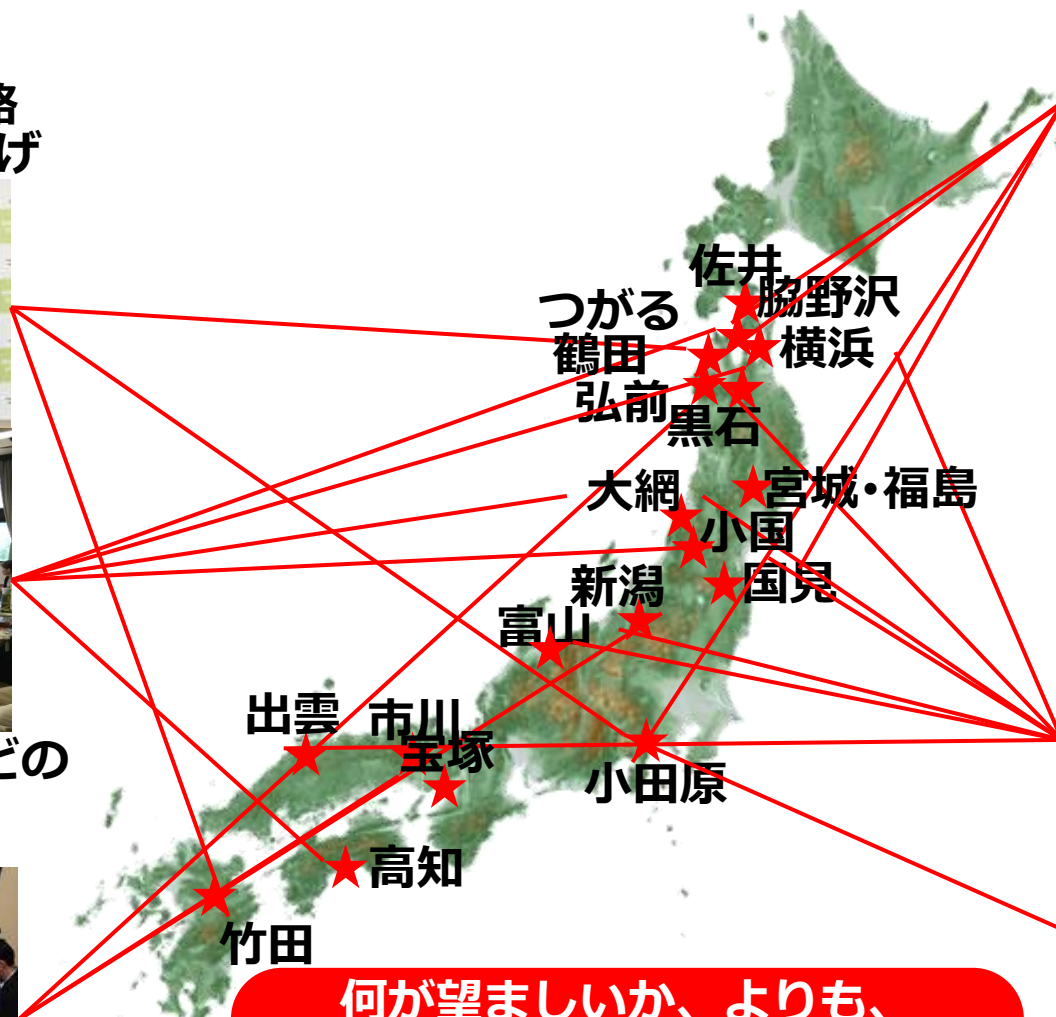
総合計画・総合戦略
 ビジョンと積み上げ



旧学校・空き家などの
 再生(管理構想)



移住者・関係人口
 との共創(協力隊)



伝統行事の継承
 (歴史まちづくり)

持続可能な生業
 (農村RMO
 ・みどりシステム)



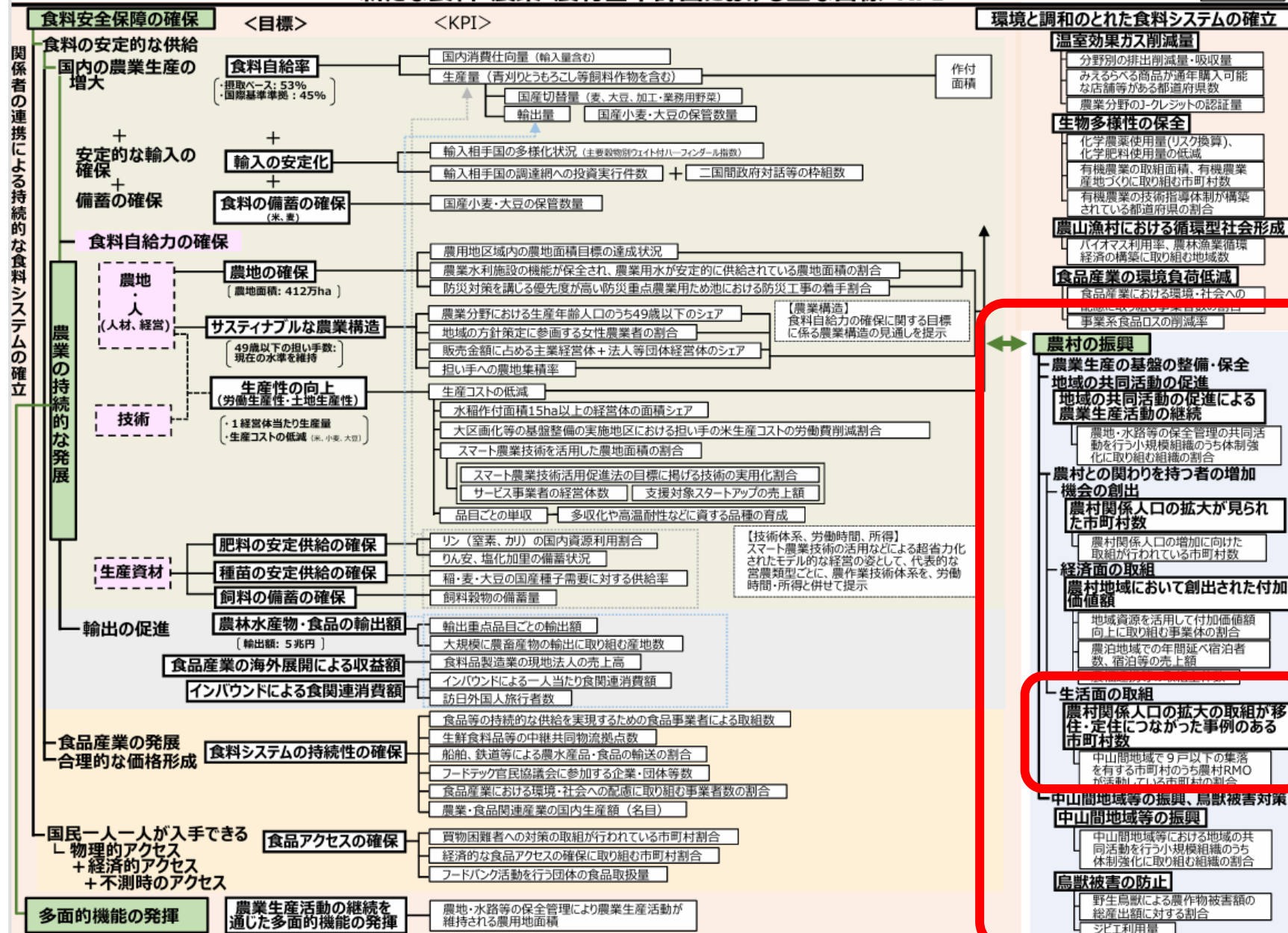
何が望ましいか、よりも、
 どうしたらありがたい未来が、
 現場の実践actionから
 生み出せるかを研究research
 年間50件ほどワークショップ



失われた世代の
 みかん農家

新たな食料・農業・農村基本計画における主な目標・KPI

参考資料 2



総額 3兆1,377億円（2兆2,956億円） ※（ ）内は令和8年度当初予算額
うち『「強く豊かな日本」投資枠』 4,272億円

<事項要求>

- ①新たな水田政策の実施に係る経費
- ②農業構造転換集中対策期間において機動的・弾力的に対応すべき事業の実施に係る経費
- ③「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費

○ 農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の強化

①食料安全保障の強化

- 水田活用の直接支払交付金等の抜本的見直し、中山間地域等直接支払・多面的機能支払の見直し、新たな環境直接支払の創設

新たな水田政策の創設
3,565億円＋事項要求（3,565億円）

②農地・人材・技術の強化による農業の持続的・創造的發展

- 地域計画の実現に向けた農地バンクの機能発揮・協力団体との連携による農地集約化、新規就農者の育成・確保、担い手の機械等の導入

地域計画に基づく農地の集約化
291億円（174億円）等

- 農地の大区画化等、水利施設の計画的更新、ため池防災・減災対策、情報通信環境整備など生産基盤・生活インフラの整備・保全

農業農村整備事業＜公共＞
4,375億円（3,365億円）等

- スマート農業技術の開発・供給、サービス事業者の育成・活動、重要品種の育成・種苗生産、農研機構の研究開発・機能強化の推進

スマート農業技術活用促進集中支援プログラム 796億円（185億円）等

③農村の振興

- 官民共創の促進による地域活性化、地域課題に応じた総合的な人材育成、農福連携、農泊など里業の推進、中山間地農業の振興

農山漁村振興交付金
100億円（70億円）

- 強固な侵入防止柵など柵整備の強化、クマ・シカ・イノシシの捕獲対策の強化など鳥獣被害防止対策の推進とジビエ利用の更なる拡大

鳥獣被害防止対策とジビエ利用の推進
199億円（100億円）

11 日本型直接支払

令和9年度予算概算要求額 事項要求（前年度－）

<対策のポイント>

近年の農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動等によって支えられ国民全体が享受している多面的機能の発揮に支障が生じつつあることから、平成27年度から「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（平成26年法律第78号）」に基づき、日本型直接支払を実施しています。

<政策目標>

地域の共同活動、中山間地域等における農業生産活動による農業の多面的機能の維持・発揮及び農業生産活動における環境負荷の低減

<事業の内容>

<令和9年度の見直しの内容>

多面的機能支払

事項要求（前年度 50,048百万円）

活動内容
に着目

【資源向上支払】

- 地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る共同活動を支援



水路の泥上げ

【農地維持支払】

- 多面的機能を支える共同活動を支援

活動組織の支援の充実

- 外部人材の確保や先進技術の活用により作業の省力化を図る取組を支援し推進
- 地域全体で長期中干し、冬期湛水等の取組を拡大させる観点から、取組に対して行っている現在の支援を、活動組織にインセンティブが働く支援に見直し

共通

プッシュ型による取組強化

- 国は、都道府県・市町村とともに、地域計画の見直しとも連携しつつ、集落に対する関与を強化

返還免除規定の徹底

- 高齢や病気等のやむを得ない事情がある場合には、遡及返還が不要であることを徹底

一体的実施の推進

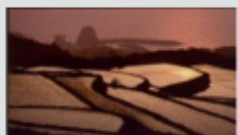
- 中山間地域等直接支払の集落協定が、既存の組織のままで多面的機能支払もまとめて申請できる仕組みを導入し、多面的機能支払の取組拡大を図る

中山間地域等直接支払

事項要求（前年度 28,460百万円）

対象地域
に着目

- 中山間地域等において、農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けた農業生産活動の継続を支援



中山間地域

対象農用地の拡大

- 傾斜によらない不利性（法面管理、ほ場条件等）を有する農地について、協定農地の営農や共同活動の継続に地方公共団体が必要と認める場合に、集落協定の対象農地へ位置付け

地方負担の軽減

- 現行の地方財政措置に加え、更なる地方の負担軽減策としてどのような対応ができるか検討

新たな環境直接支払

事項要求（前年度－）

取組内容
に着目

- 有機農業等の環境負荷低減型農法への転換・拡大の取組を支援



有機農業

対象者の拡大

- みどり認定農業者を対象（個人・団体いずれの申請も可）

導入リスクにも対応した支援

- ① 有機農業への転換、② 環境価値を創出する取組、③ 土づくりの面的拡大等に資する取組について、取組ごとの転換・拡大時の「掛かり増しコスト」だけでなく「導入リスク」にも対応した支援
- 同一圃場での同一取組への支援は5年間で区切りとし、新たな圃場への取組拡大等を促進

なんのための多面の重点化、中山間対象拡大、多面中山間一体実施へのプッシュ？

<対策のポイント>

令和9年度以降の水田政策の見直しの中で、中山間地域等直接支払の見直しを行うとともに、農業を「支える」ための施策、農業に「関わる」者を増やすための施策、農業で「稼ぐ」ための施策を一体的に講ずるため、関係府省の施策を含め中山間地農業の振興施策を充実します。

地域の実情に応じた取組が実施できるよう、中山間地農業ルネッサンス事業や農山漁村振興交付金等を活用し、計画づくりから事業実施、取組の定着等を行う地域への伴走支援体制を構築します。

<事業目標>

将来にわたって稼ぎ、暮らしていける中山間地域の実現

将来にわたる生業・生活の持続が目標

巻き込み
対話と出番

伴走・横串

<事業の全体像>

生業

中山間地域等の農業で「稼ぐ」取組

中山間地農業ルネッサンス事業

地域別農業振興計画に基づく地域特性を活かした活動の推進や各種支援事業の優遇措置により、中山間地農業を支援



きめ細かな基盤整備



高収益作物の導入



スマート農業の導入

地域資源活用価値創出対策※

6次産業化、農泊、農福連携など多様な地域資源を活用することにより、新たな価値を創出し、所得の向上と雇用の創出を図る「里業」の取組を支援

中山間地農業推進対策※
(元気な地域創出モデル支援事業)

収益力向上、販売力強化等に関する取組を支援

中山
「関わる」者を増やす取組

地域資源活用価値創出対策※

農泊地域の実施体制の整備、食や体験の観光コンテンツとしての磨き上げ、地域交流拠点の整備等を支援

中山間地農業推進対策※
(棚田地域振興対策推進事業)

地域外との橋渡し・人材確保を支援

地域の計画づくりや
伴走支援人材への支援

地域資源活用価値創出対策

専門家や伴走支援人材を派遣・紹介する体制整備、各地域の課題に対応したオーダーメイド型の人材育成、発展的・継続的な地域づくりのための実証を踏まえた計画策定への支援



地方創生センター

地方農政局 市町村 教育機関 専門家
民間企業 地域金融機関 民間団体

- 必要な人材のマッチング・派遣
- 事業の創出、経営改善をサポート

生活

中山間地域等の農業を「支える」取組

中山間地域等直接支払

農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けた農業生産活動の継続を支援



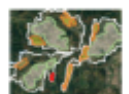
農用地の維持・管理

多面的機能支払

地域共同で行う多面的機能を支える活動等を支援

最適土地利用総合対策※

地域における土地利用構想の策定から実現までの取組や荒廃農地の再生を総合的に支援



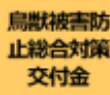
土地利用構想の策定



農地の粗放的利用

中山間地農業推進対策※
(農村RMO形成推進事業)

複数集落の機能を補完する農村RMOの形成を支援

鳥獣被害防
止総合対策
交付金

鳥獣被害対策等を支援

地域の実情に応じて取組をサポート

関係府省
の制度活用

・内閣府
・総務省
・文部科学省
・厚生労働省
・国土交通省 等

多様な主体
との連携

・郵便局
・地元企業
・RMO
・地域おこし協力隊
・集落支援員 等

将来にわたって稼ぎ、暮らしていける中山間地域の実現

中山間緩傾斜への拡大＋中山間と多面の一体実施→中山間と平場の横断的取組が期待

＜対策のポイント＞

中山間地域等において、地域別農業振興計画に基づき、収益力向上や販売力強化等に関する取組、**複数集落の機能を補完する農村RMOの形成のほか、**棚田地域等の振興に関する取組を支援します。

複数集落の機能を補完する農村RMOの形成のほか、

＜事業目標＞

中山間地域等において、地域資源を活用した商品開発等による付加価値向上や販路開拓に取り組み、事業目標を達成した地区の創出（300地区【令和12年度まで】）

＜事業の内容＞

1. 中山間地農業ルネサンス推進事業

元気な地域創出モデル支援※

収益力向上等に関する取組、デジタル技術の導入・定着を支援します。
 【事業期間：上限3年、交付率：定額（上限3,000万円（年標準額：1,000万円））】

2. 農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

① 農村RMOモデル形成支援※

- ア 活動着手支援型：遊休農地活用の開始など、農村RMOの形成につなげる取組を支援します。
 【事業期間：1年、交付率：定額（上限200万円）】
- イ 地域連携型：農村RMOの活動の定着に向けた活動継続計画の策定や地方公共団体等と連携した取組を支援します。
 【事業期間：上限4年、交付率：1/2以内（上限1,500万円（年標準額375万円））】

② 農村RMO形成伴走支援

各地域の取組に関する情報・知見の共有、研修等により、農村RMO形成の更なる推進に向けた取組を支援します。【事業期間：1年、交付率：定額】

3. 「ふるさと未来」プロジェクト推進事業

＜事業イメージ＞

1. 元気な地域創出モデル支援

- ①収益力向上
- ②販売力強化
- ③農用地保全
- ④複合経営
- ⑤生活支援



高収益作物導入

高品質な作物の育成

社会課題の解決や
 地域活性化
 を通じた

2. 農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

① 農村RMOモデル形成支援



② 農村RMO形成伴走支援

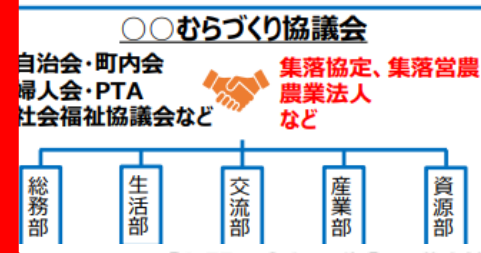


全国規模の研修による人材育成

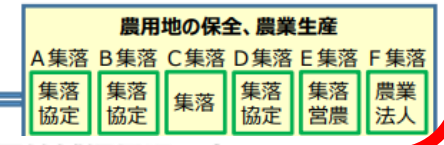
農村の
 「くらしづくり」
 を推進

＜事業イメージ＞

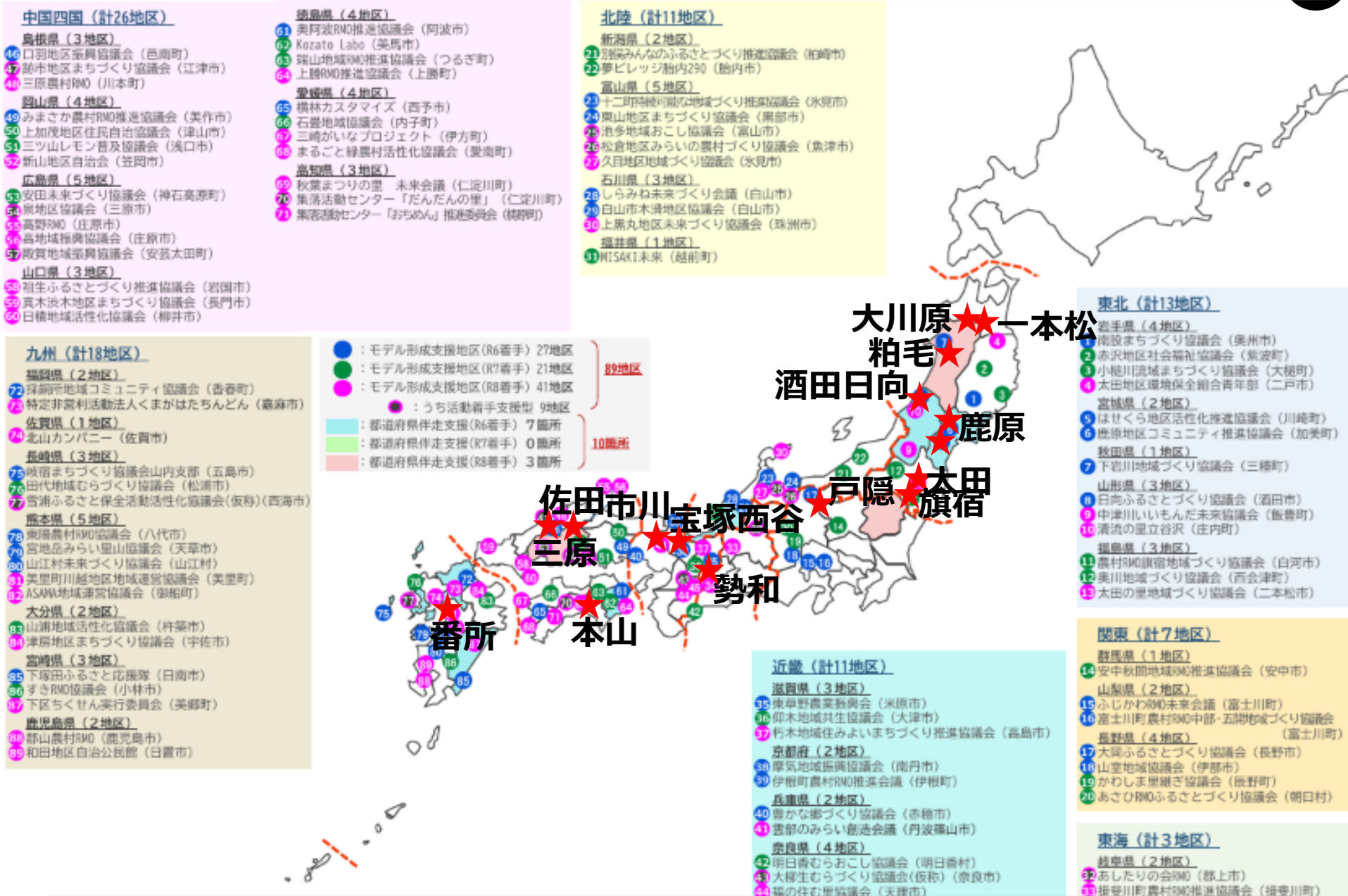
農村型地域運営組織（農村RMO）のイメージ



- 複数の集落による集落協定等と自治会など多様な地域の関係者が連携して協議会を設立
- 地域の話し合いにより、農用地の保全、地域資源の活用、農村の生活支援に係る将来ビジョンを策定



農村RMOとは...
 簡単に言えば、集落機能＝集落での
 生業・生活が続くことを支える活動
 ・3つのサブ機能はメイン機能の結果
 ・協議会・部会制の組織はあくまで結果
 ・大事なものは組織形態や実施事業よりも
 地域でしっかり話し合い
 「どうありたいのか」を共有すること



モデル事業地区だけが農村RMOではない！組織ではなく実践がポイント！

9/3農村RMO不毛の地あおもりで JTB総研橋本さんの講演

A市職員：1時間話聞いたけど結局、
農村RMOて何？一言で言うと

いろいろな組織を横断すること。。。
で、集落が持続すること。。。

ごめんなさい、よくわかりません(; '▽')

B市あおもり型農村RMO専業農家：
みんな地域のためにそれぞれ頑張ってる
でも、つままない縦割りで躓く
それを解決するのが農村RMOじゃない？

前日、別のC市のあおもり型農村RMOの
話合いで兼業農家(土方一人親方)から
「農村RMOなんだから、今ある組織さ
つないでいくんだべ」

現場の人たちは体感で勘所をすでに理解



農政の大転換期以前に、
農家のみなさん総引退期に入る今だからこそ、
農村・集落がどうしたら持続していくのか、
そのための知恵を寄せ合う場、
組織ではなく取組が次々生まれる場こそ農村RMOの根本
では、どうしたら生まれるのか？

踊り場に来たとき、現場から
アイデアが次々出るようにしたい

気候変動やグローバル化
に順応する踊り場

理想 + 寄り添い
DISCOVER DREAM DESIGN DESTINE

主語は住民→住民も行政も

姿探し
ありたい

目標共有
将来像

試行錯誤

成功体験
小さな

仲間づくり
team building

事業展開
組織的

かけた時間は
費用ではなく資本

中越復興では
3-5年で分岐点

地域力
地域の盛り上がり

危機感 + 補助金

課題探し

補助事業

形式的
組織化

補助切れ

事業疲れ

目標喪失

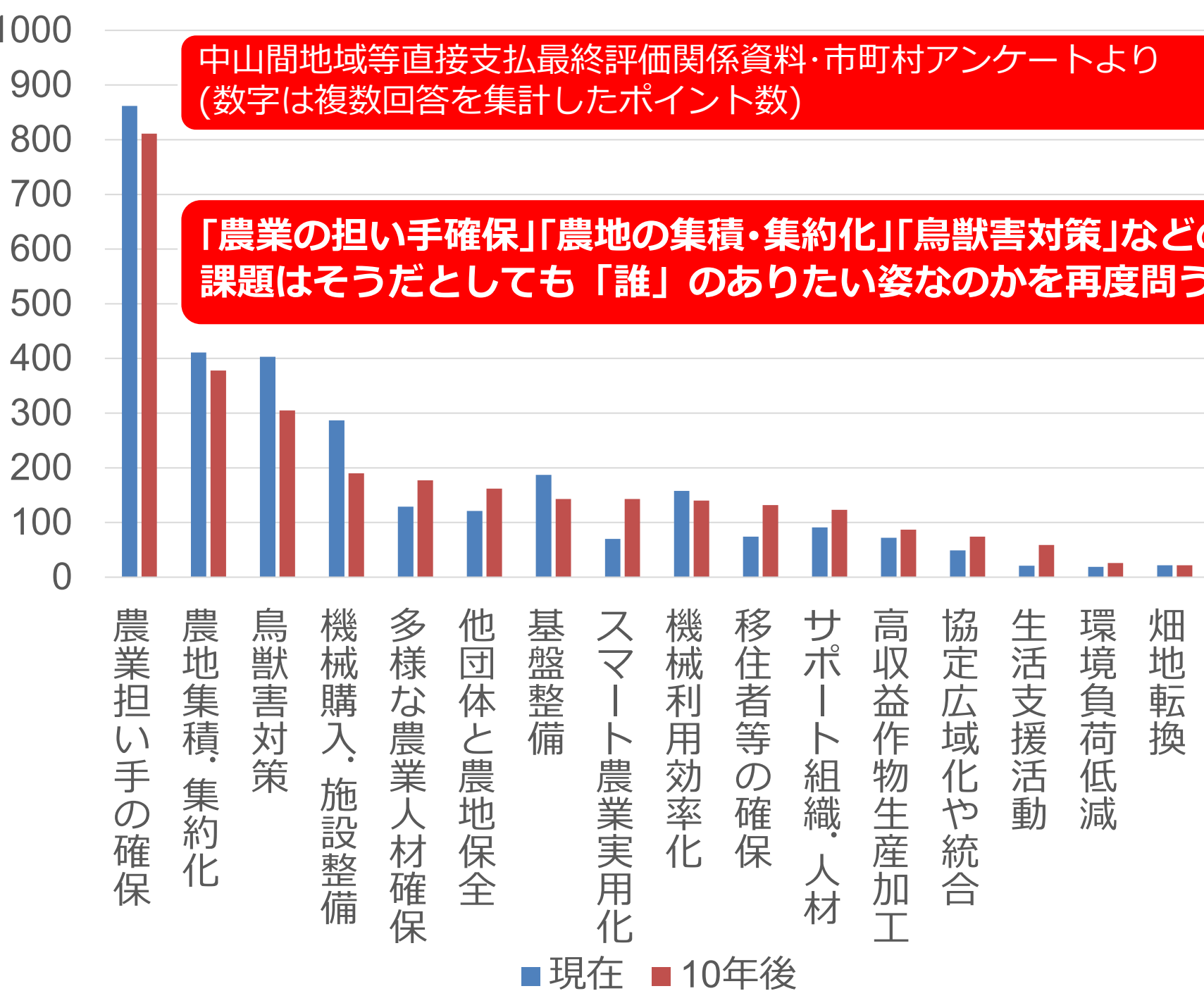
倍の諦め

時間

0

中山間地域等直接支払最終評価関係資料・市町村アンケートより
(数字は複数回答を集計したポイント数)

「農業の担い手確保」「農地の集積・集約化」「鳥獣害対策」などの
課題はそうだとしても「誰」のありたい姿なのかを再度問う

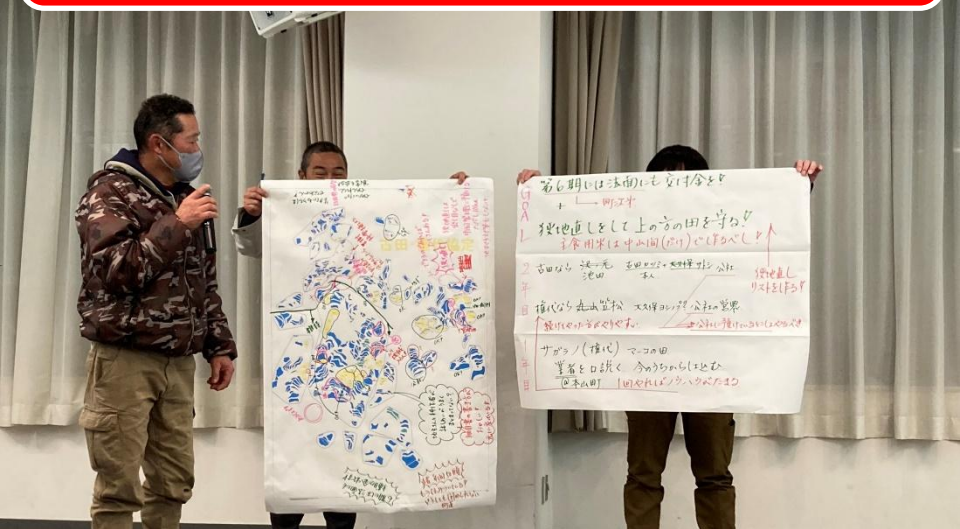




①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM



②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)



④身の回りの状況を夢の実現にいかすための物語=5W1Hをつくる
DESIGN for DESTINED DREAM



③身の回りがどうなってるか確かめる
(農地管理状況など)DISCOVER



①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM

②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)

👉 課題は誰かが解決してくれること。夢は自分が目指すもの。
個人の夢を話し合いでみんなの夢にできれば、自分事が地域事になる。

👉 まず似顔絵を描き合うことで気分がほぐれる→左脳でなく右脳が働くとの声
ニックネームを聞き合うことで肩書ではなく家族のような関係に
→行政への要望・苦情を言いに来た方が「しょうちゃん」「お父さん」になる

👉 経験上、どんな方でも「こうありたい」という声は必ずある
特に不満・不安ばかりという状況ならば、まずは不満・不安を聞いてもいい
→できれば核心的な不満・不安にまず応えられれば動き出す
(例)うちのムラは電波が入らないから若い人がいやがる→電波を立てる
うちのムラは下水が通っていないから→格安の合併浄化槽、規制を見直す

夢語りのシートは地域の財産になる

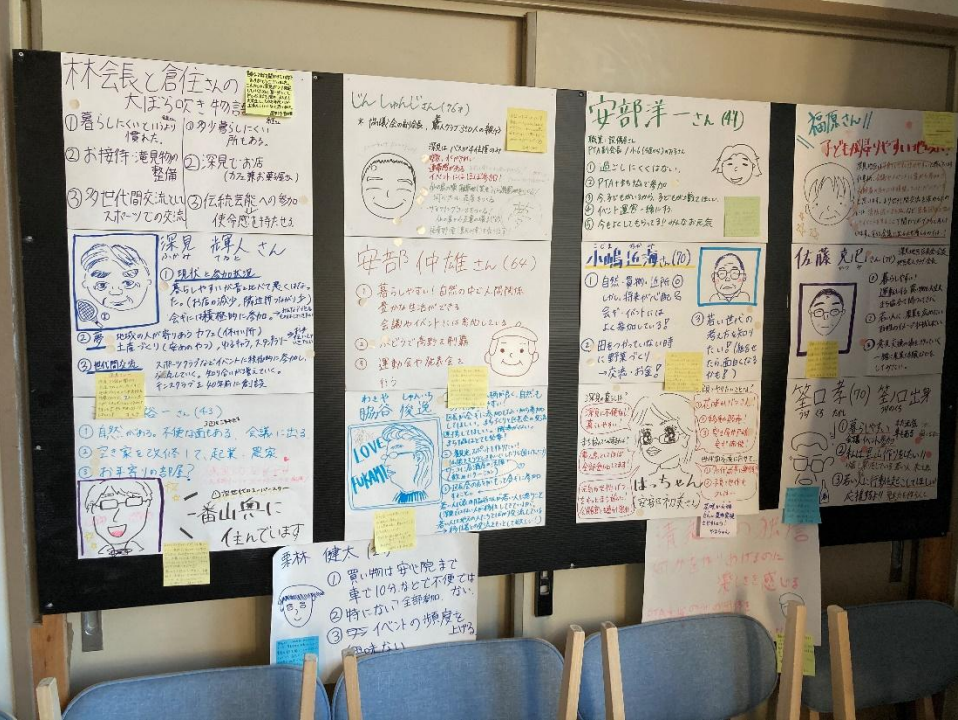
宇佐市深見地区での試み
ぶどうの6次化「百笑一喜」
グリーンツーリズムで著名。

でも互いの夢を語り合うのは
初めてだった。。



3年後訪ねてみると...
公民館に貼り出され
思わぬところから実現も。
新たな仲間の夢も。

他人ごと→自分ごと→地域ごと



**もうすでに始めてしまっている、
今さら夢語りなどしてられない、
というところも、
いつでも夢語りから始めなおせる**

直払を集落営農経営に組み込み農外事業拡大

出雲市佐田地区窪田の農村RMO

集落営農の法人化B(80戸30ha、2003年)

→市委託外出支援(1人月2回まで)と配食サービス(毎日朝夕)=通年雇用の柱
→除雪・機械整備、さらに育苗+育苗ハウス利用、事務受託、林業にも
+畦畔除草に羊を導入→癒しと毛織物+直払でのインターン受入



昭和の旧村(窪田)単位で多面支払の組織を一体化(170ha)=年2000万円
→労役負担だけでなく未来への投資が可能に (例)畦畔防草加工

2階建てのうえで

A法人=有機による農の付加価値化
B法人=農外事業による経営安定化

集落営農の法人化A(60戸30ha、1998年)

→中山間直払を財源に新規就農者の受け入れ

→エコファーマー、GAP、有機JAS認証による付加価値化

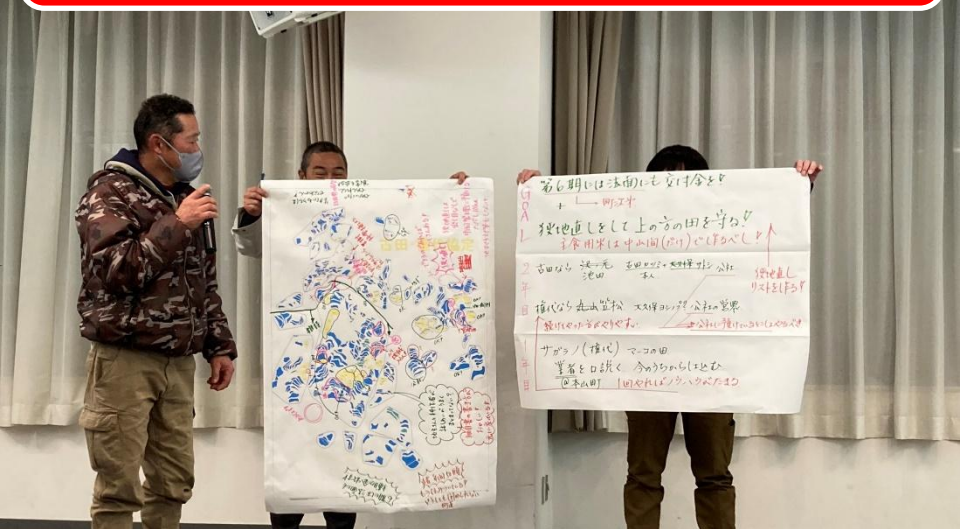
窪田を含む佐田地区での農村RMO





このままではどんどん耕作放棄が増える

農地を荒らさずに未来に受け継ぎたい



- ・直払の事務負担の分担・軽減
- ・草／獣との付き合い方
- ・非農家、地域外の人たちとの楽しみ方

どの農地、誰の所有地で荒れそうか
草刈なのか、獣害なのか、担い手なのか

出雲市須佐地区488a



斜面が竹で覆われる
森林組合職員が退職し集落の世話を



空気清浄機メーカーからの依頼で
炭焼き窯の跡をいかして竹炭に



炭だけでなくチップーでパウダー化
発酵させて田にすき込む



田も維持できない
別のメーカーに依頼され
精油用のクロモジを田に植える



山から選抜したクロモジを育て
空き育苗ハウスで乾燥して出荷



ノウハウを地区全体で共有する場が
& 地域で加工までできるように
畦の防草加工も直払で行う話し合いに

集落営農の3階建てと 農村RMO

集落支援

3階建て方式

共同販売・共同購入
事務の共通化

効率化よりも共同だからできること

出口＝解答の絵は描ける
でも現実はいまうまいかない

集落営農

農外事業

農村RMO

除雪・移送・配食　そして事務

環直の組合せ

環境保全の実効性を確保する集落営農

2階建て方式　有機による高収益化

行政や消費者・取引先
からも支援

集落協定
(多面・中山間)

里山多面の組合せ
＋粗放的利用導入

農地・林地の境を超える

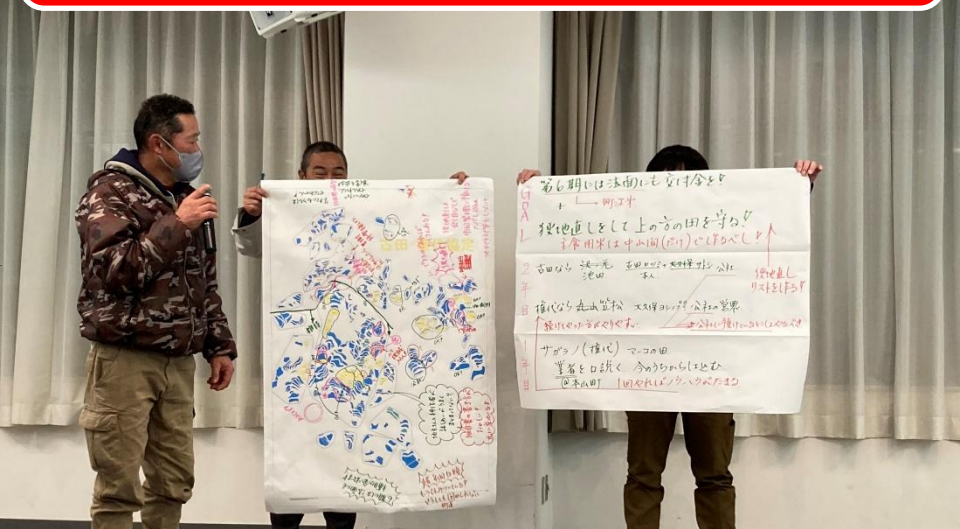
**効率的だから、では、
自分たちで考えるより前に
範囲や規模が大きければいいという結論ありき**

**机上の組織論よりも
小さなありたい姿を見定め
徐々に育てた方がいいのでは？**



獣害で困り果てている

ケモノに負けないムラでありたい



・柵の整備・ジビエの活用・草刈、枝落
としての励行で干渉地帯を・獣とつきあう
農:竹、彼岸花、山菜、しし米

どこでどんな獣害がひどいのか
獣害にやられないものはないのか

藤里町粕毛地区76.2ha
実質1集落



白神山地を望む
裏庭展望台



白神山地の麓でクマが闊歩
コロナも乗り越えた農泊が再びピンチ



クマの通り道を集落の人たちで情報共有



クマの通り道になる草むらを
乗用草刈り機やモアで徹底的に管理
財源は農村RMO



温暖化なのに続く大雪でも安心して
暮らせるように除雪機も導入
間口除雪手分けして



クマの好きなカキやクリも
じっくり話し合って手入れ



白神山地を望む田んぼの景色を守りたい
という思いが顧客やファンに浸透



山あいの耕作放棄地
化粧品メーカーから契約栽培
鳥の被害も農村RMO仲間の助言でクリア

お年寄りでも続けられる農泊

地元の高齢者福祉NPO
伴走支援

地域資源活用

生活支援

2017

農水省・農泊事業

農泊
お年寄り
中間支援組織が受付・調整・決済
宿泊だけOKのおじいちゃん+料理だけのおばあちゃん。
体験は集落の畑や中間支援組織のイワナ築場。

小回りが効き
事務能力も高い理想の伴走

地域資源活用

農用地保全

生活支援

2023

農水省・農村RMO事業

伴走支援

農泊
空家一棟貸し
裏庭展望台

多面組織
モア・乗用草刈機

町内会
間口除雪

農水省・山村振興事業

中山間協定設定できず。
除草受託だけでは自主財源見通し立たず

2026

伴走支援

農村RMO

加工女子協力隊OB

化粧品企業

伴走支援組織と地域組織がほぼ人的に一体化
地域資源の商品化の収益も、伴走支援組織なのか、農村RMOなのか未分化

**獣害を何とかしたい、
という本当に切実な想いから
取組を次々と生み出している場がある**

人口減少と自然の圧の高まりの極限において

佐井村全村60ha(8集落)



何を作ってもサルに食われる
話し合いで「サルに負けない」が目標に



サルに食われにくいものが次々
種苗業者・普及員交え勉強会を



サルより早く取りにいく名人を中心に
農地の集約化に道筋



隣の地区、隣の市からの通い農の人
4名が農地を引き受ける
&栽培指導の学びの場ができる



収穫祭 野菜を使った地元の食
&特産の魚を使ったさつま揚げ



80年代に賑わった山菜加工センターが
新たな衛生基準に集団対応する受皿に



収穫祭から秋祭りでの獅子舞が
20年ぶりに復活
サルには勝てないが負けない

佐井村+川目

サルに負けない、リーダーや売り先がなくなっても

協力隊OBのローカルコンサル

地域資源活用

生活支援

2021

青森県・地域経営モデル集落事業

伴走支援

産直

お年寄り

サルが寄らない作物の自発的掘り起こし
産直で人気のある花、懐かしい餅づくり伴走支援者も
一プレイヤー
である限界

地域資源活用

農用地保全

生活支援

2023

青森県・地域経営事業
1集落をベースに全村に開く

県普及村大学

産直・協力隊OB

集落協定

町内会

冷蔵庫
真空パック耕作者斡旋
学びの場集いの場
加工施設青森県・あおり型
農村RMO事業……

中山間協定設定できず

産直手数料だけでは自主財源見通し立たず

2026

農村RMO2人代表制……

発酵女子

地元企業

県普及村大学

伴走支援組織を立てなくても役場さえ機能していれば回る……

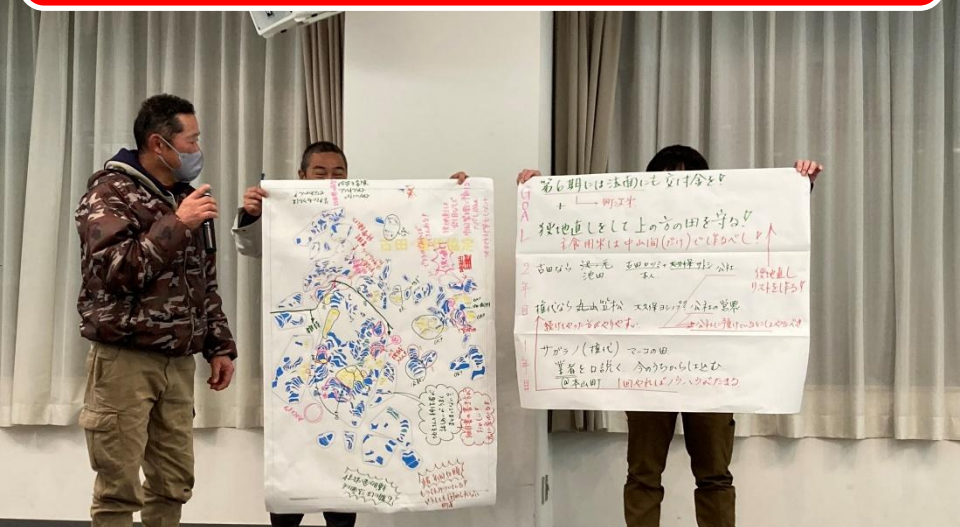
人口減少が極限まで進むと事務的な「代表」さえも常識を超えてくる



米が安くてやっていられない
そばのままでは交付金がもらえない



農産物や農地でもっと稼げるように



- ・ 特裁や有機JASに挑戦する
- ・ 地域外の人たちを招いて買ってもらう
- ・ 貸農園を開く



どこで何ができて、どこがうまいのか
どこが大変なのか

黒石市大川原地区71ha
協定としては2集落



田植機・収穫機、草刈機
などの共同利用組合



車で10分ほど離れた温泉旅館から
そばの作付けを依頼



そば用の播種機や製粉機も
共同利用組合で導入



集落で年2回の意見交換の場に
40代兼業農家・地域外農家の意見から
有機栽培に取り組むことに



中山間直払の棚田地域加算で
ドローンや防草ロボ、水位センサー
なども導入



そばから有機JAS米へ翌作から転換
そばの有機JAS認証にもチャレンジ



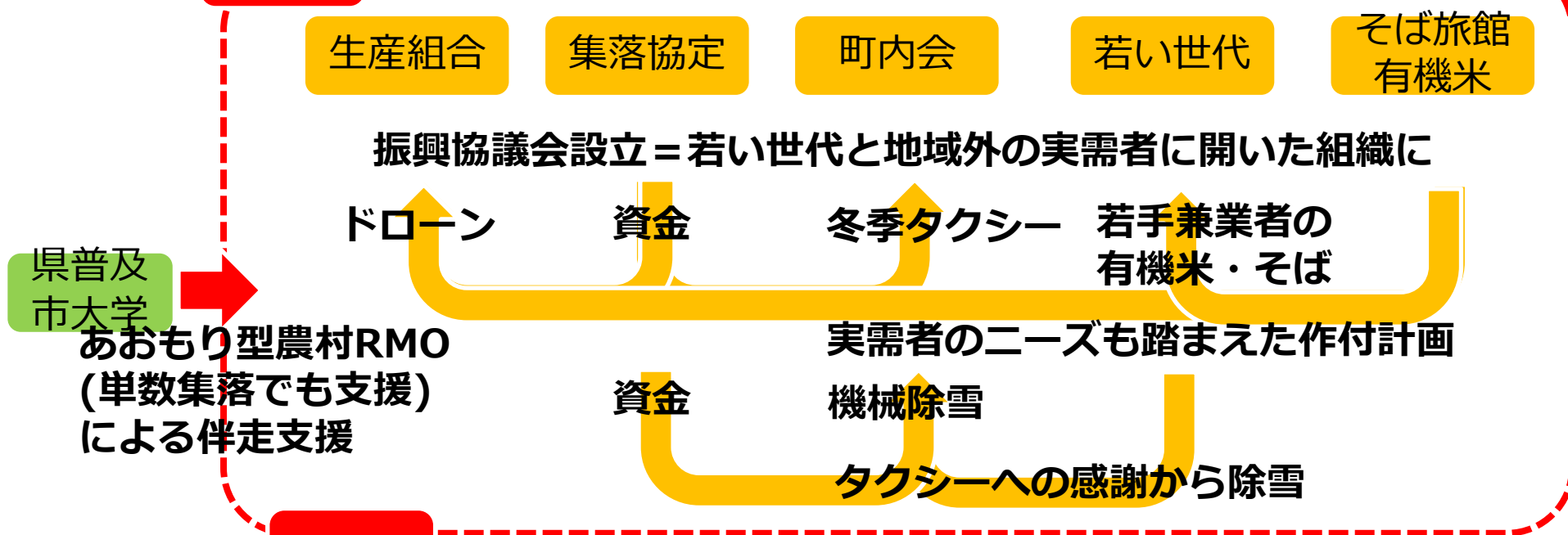
有機の肝は省力化・資材投入減
畦畔でも高刈りが普及

大川原(黒森)

60代、70代の特定の男性たちで輪番



2021 棚田地域指定 = 棚田加算



2026

地域おこし協力隊2名とはうまい関係形成ができず。。。

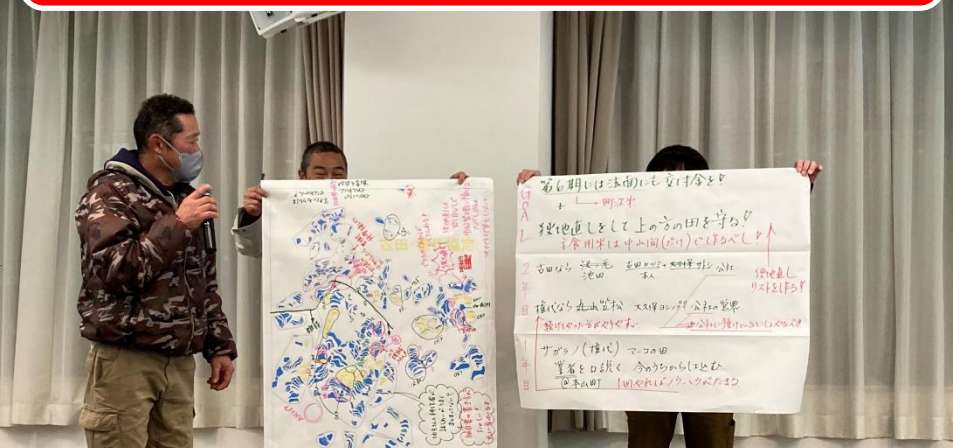
キーパーソンが立て続けに亡くなり50代兼業農家がリーダーに



大雪が降っても安心して暮らしたい
隣り町に透析に通いたい



住み慣れた家で暮らせるように



- ・間口除雪など助っ人の組織化
- ・子ども/お年寄り、人/物を一体的に
- ・中山間でもタクシー代を支援
- ・移動販売の帰り荷で農産物を出荷



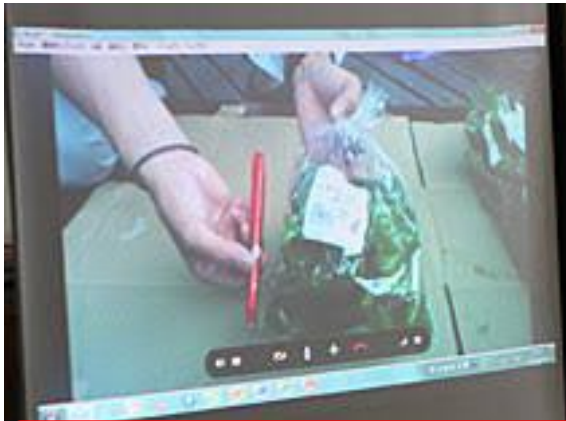
どこでどんなニーズがあるのか
どのルートならば行けそうか

弱者扱いしない！地域づくり

32

横浜町など 集いの場でのお買物

直売所とテレビ電話を結ぶ。女性にとって買物が一番の脳トレ。



地域

買物
弱者

生産
者

送迎

集荷

月50万円

移動
販売

日販12-13万円
2時間圏内

COOP
AOMORI
コフ.あおもり

COOP
青森県民生協



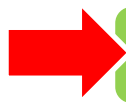
横浜町・中泊町など 産直集荷・配達

全国の産直で、生産者の高齢化対応で、集荷を強化。配達などを合わせて行い運営費負担をできるだけ軽く。特に集いの場を集荷・配達のものにするのが効果的。

集いの場での餅づくり（佐井村）、お茶っこ費用をメルカリで稼ぐ（三沢市）

七和(6集落
=旧小学校区)

コンサル
伴走



地元
社福



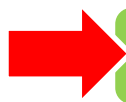
2014

青森県
集落経営事業

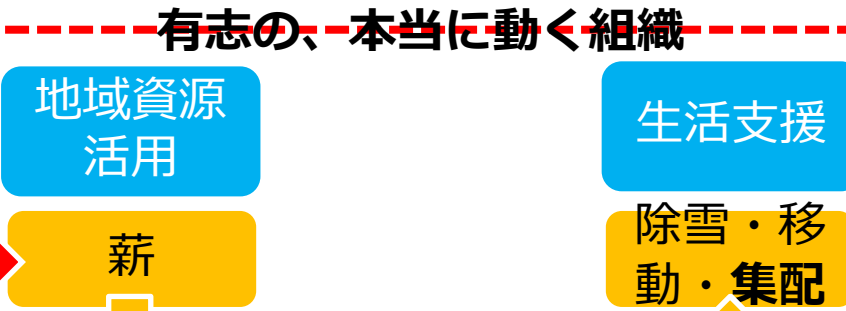
収益を上げようとするが...

ケアマネさんの発案の間口除雪ボランティア

コンサル
急逝



地元
社福



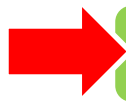
2016

国交省
集落NW事業

本当の地域資源は弱者だと思っていたじつちやばつちや

補助金頼みの移動支援は続かない、除雪は介護保険で

県普及
市大学



地元
社福



2021

青森県地域経営
あおもり型
農水省最適利用

米自体より大事な収穫祭=地域内外の人材掘り起こし

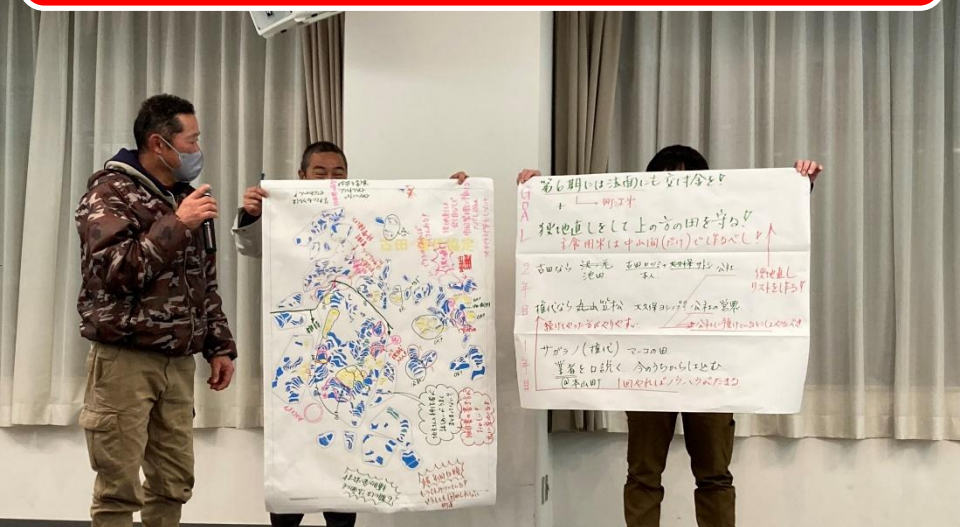
社福による廃校買得→ケアマネ拠点+地域食堂→担い手も隣地区の農泊さんへ



畦の草刈が大変だ



畦の草刈が続けられるようにしよう



- ・ 神刈を入れる・草が生えにくい植栽
- ・ 農家でない人や地域外の人でも楽しく参加する枠組みをつくる



どこが、どれくらい大変なのか確かめる

宝塚市西谷地区13集落5700ha



国交省・国土管理構想のモデル地区に

農地や居住地の縮小の決断が迫られ
話し合いが難航

ありたい姿に切り換え
地域計画や集落戦略見直しと一体化
あえて斜面地の農業残す選択

A集落：貸農園事業と営農、農地保全
地区全体の国交省関係人口事業を一体化
移住希望→貸農園→就農＋空き家斡旋

B集落：獣害対策もかね山里境界斜面を
かつての特産の栗園に再生する活動
年1万12回草刈技術＋つながり40名

C集落水田ダイヤ球根栽培も
花摘みイベントに：参加者が新規就農

集落ごと直払の一体運用と
小学校区での集落間の連携
ノウハウ交換・農地・空き家斡旋

西谷13集落(中学校区)

まち協支援
のコンサル伴走
支本庁地域資源
活用農用地
保全

生活支援

2022
A集落国交省・国土管理構想
関係人口事業営農組合
・貸農園

集落協定

空き家

地域計画と集落戦略の一体作成

貸農園から農地の斡旋、空き家の斡旋

2023
B集落

3つが複合する集落機能＝持続

農用地
保全営農組合
・貸農園

集落協定

空き家

栗園再生

貸農園から栗園再生に

栗園再生からの移住・就農

斜面地での有機栽培

2024
C集落3つが複合する集落機能＝持続
互いに補い合うことももちろんOK資源活用
への展開

集落機能

営農組合
代替わり

集落協定

空き家

栗活用

ダリア組合・
町内会・協定伴走
支本庁

集落機能とは3サブ機能の総合、分けられないし変化。

1集落でできるだけ充実させ、集落横断も許容

**集落機能を3サブ機能で分けてしまうと
既存の組織ありき、それらの組織統合ありき、になる。**

**どうにかしたい、こうありたいという思いから出発する。
組織を開いておく。**

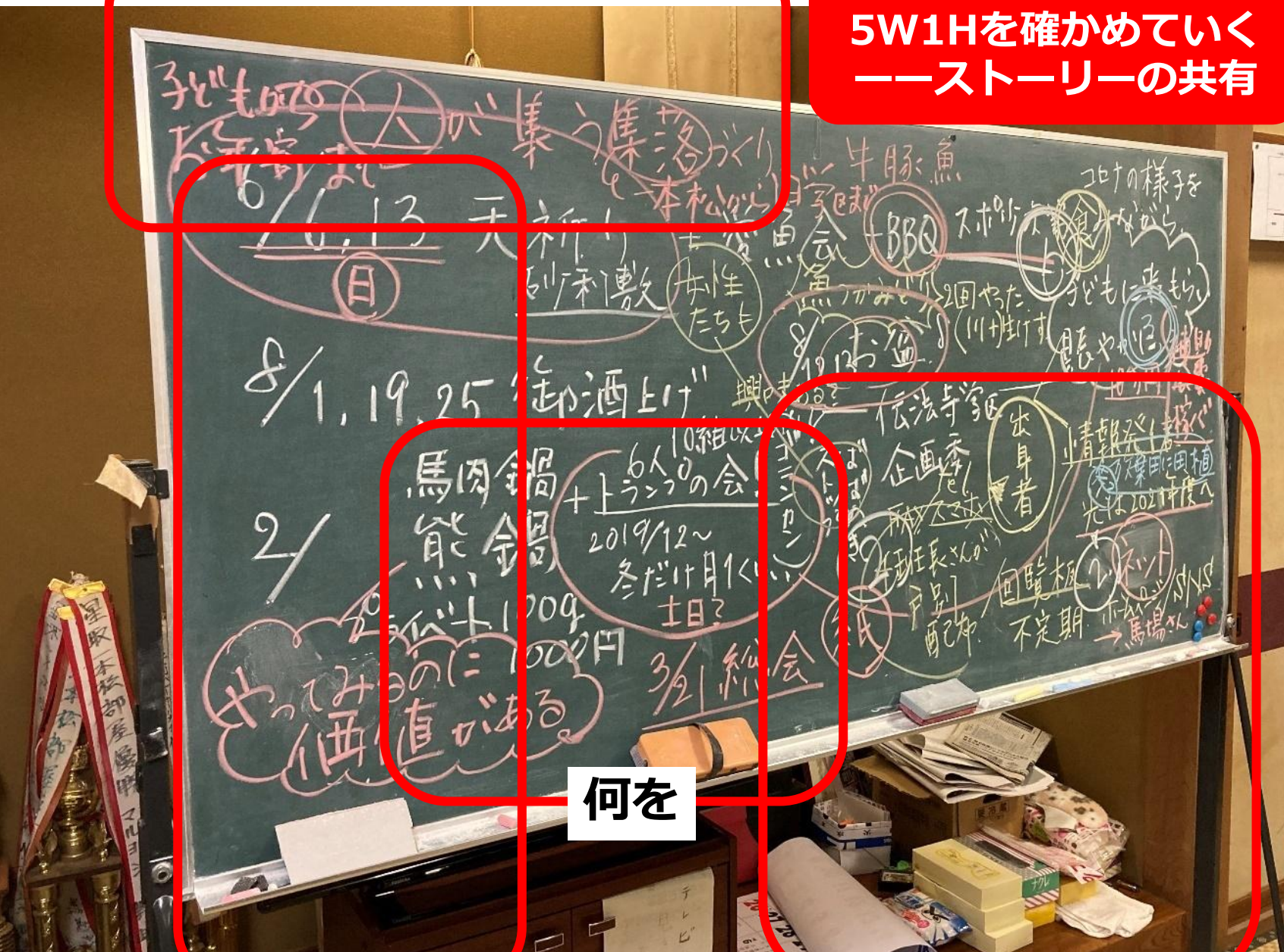
何より3サブ機能に想定されていない、

**自然の恵みを分かち合い、人びとと出逢う場をつくることが
結果として、3サブ機能をはじめ、
持続するという集落機能の未来が見えてくる**

**夢を語っていて暴走しないか？
5W1Hを確認していくと
自ずと落ち着くところに落ち着く**

なんのために

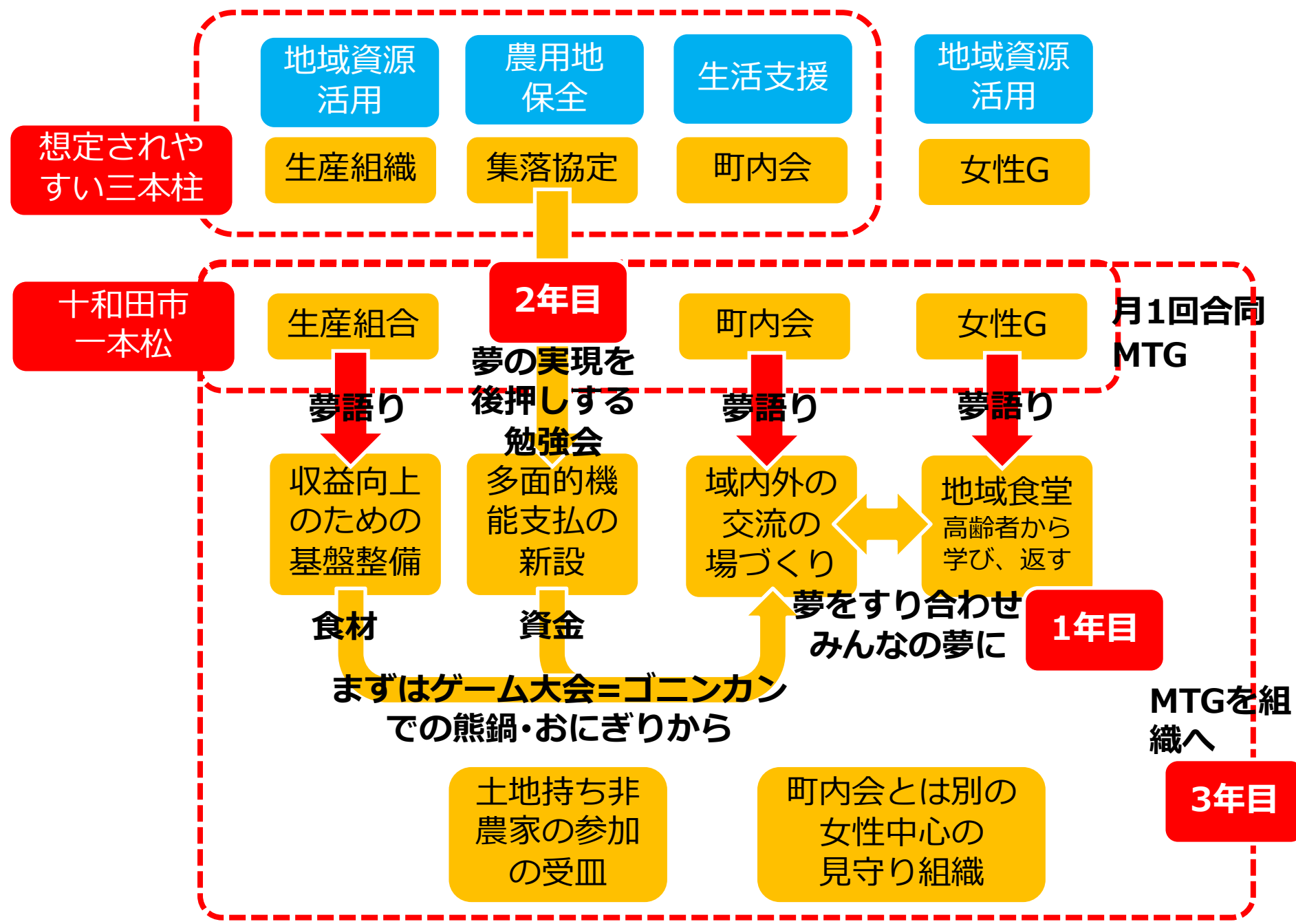
何かを決めるには
5W1Hを確かめていく
——ストーリーの共有



何を

いつ

誰が、誰に、どうやって





5年後の夢を語るところから
では4年目には何を
3年目には何を
。。。1年目=すぐ何を
やれるかが話し合える

声かけしていただき若い世代や女性も。
昼におにぎり、豚汁と一緒に食べる。

1回目は「コンビニ」、「農業収益化」
など???な夢も投票結果ならあえて残す

➡ 2回目以降「誰」がやるの?を考えて
ゆくと自ずとこなれてくる

* コンビニオーナー誘致→接待
→谷田部食堂を充実

* コメのブランド化→甲子園
→まず研修に行ってみよう

➡ 2回目以降「誰」を連れてくる
→谷田部のマチ子さん
→マチ子さんは地域のファンも把握



他者の夢を聞き出すを他己紹介ではなく
未来新聞(日付自由)に独自進化(勢和)

ありたい姿から始める地域づくりを支援する

 農政が食料安保(コムギもコメも足りない！)を軸に大転換しようとしている
→振り回されないためにも、現場のありたい姿を見定め、さまざまな施策を現場から積極的に横断し総合化して、現場のありたい姿＝持続に資するようにしたい

 危機感をてこにした課題解決型、集落3機能に対応する組織ありきの事業は、ありたい姿が共有されていないと、行き詰まりやすい
ありたい姿から始めれば、壁にぶつかっても、現場から代案が次々が出る
→そのためにも、課題＝解決策(事業)ありきではなく実のある話し合いを重ねる——ちょっとした発言も拾われ、カタチになる繰り返し 「言ってみるもんだな」

 話し合いでは「Yes, but＝そうですよね！ほかに何かお気づきのことは？」とまずは現場の声を尊重し、そのうえで別な可能性もつねに目配りしたい
→関心と敬意を持って臨んでいるかはすぐに伝わる。
現場の人たちも情報のチャンネルが豊かなので支援者側も学びを深めたい。
→知らないことが罪ではなく、それはどういうことですか？と
関心を込めた「更問い」ができるようにしておきたい。

 集まってもらう、のではなく、集まりに出向く、集まりをしつらえる
→集まりの鍵の1つは、地域に根ざした食やゲームの場
ただし本当に意味のある場だと思ってもらえれば、必ず集う、集いつづける
→次に来てもらう、誘い合ってきてもらうために1回1回が勝負
どれだけ意見が言えたか、「聞かれたか」の手応え次第

ペアの方の ニックネーム

①ペアの方の地域の
一押しの味は？食は？

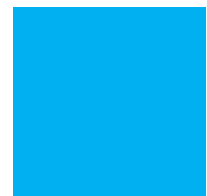
②ペアの方の5年後の
地域はこうあってほしい

③ペアの方の地域の
ありたい姿の
最大の壁は？

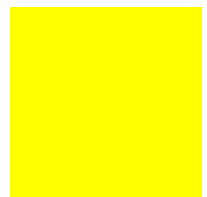


自分たちで1筆ごと確認しよう

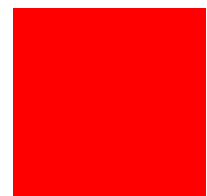
耕作者の年齢別



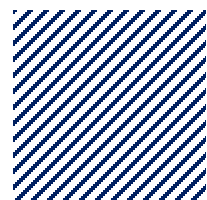
60代以下



70代



80代以上

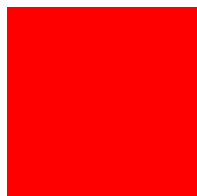


耕作放棄

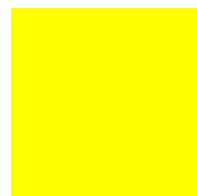
作目別



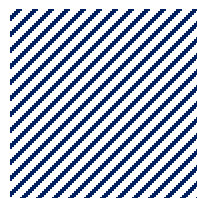
水田



樹園地



畑(野菜)



耕作放棄

 地図に耕作者のプロフィールも転記しましょう

 ちょっとした気づきを出し合いましょう

- ・ どのような人が、どのようなものが多い／少ない
- ・ どうしてこんなものが？あれはどうなってる？
- ・ 若手が多い？少ない？なぜでしょうか？

- ・ 地図記号を1つ1つ確認しながら、
利用できそうな施設、将来に不安が残る施設など

    とは？

- ・ 空き家はありませんか？

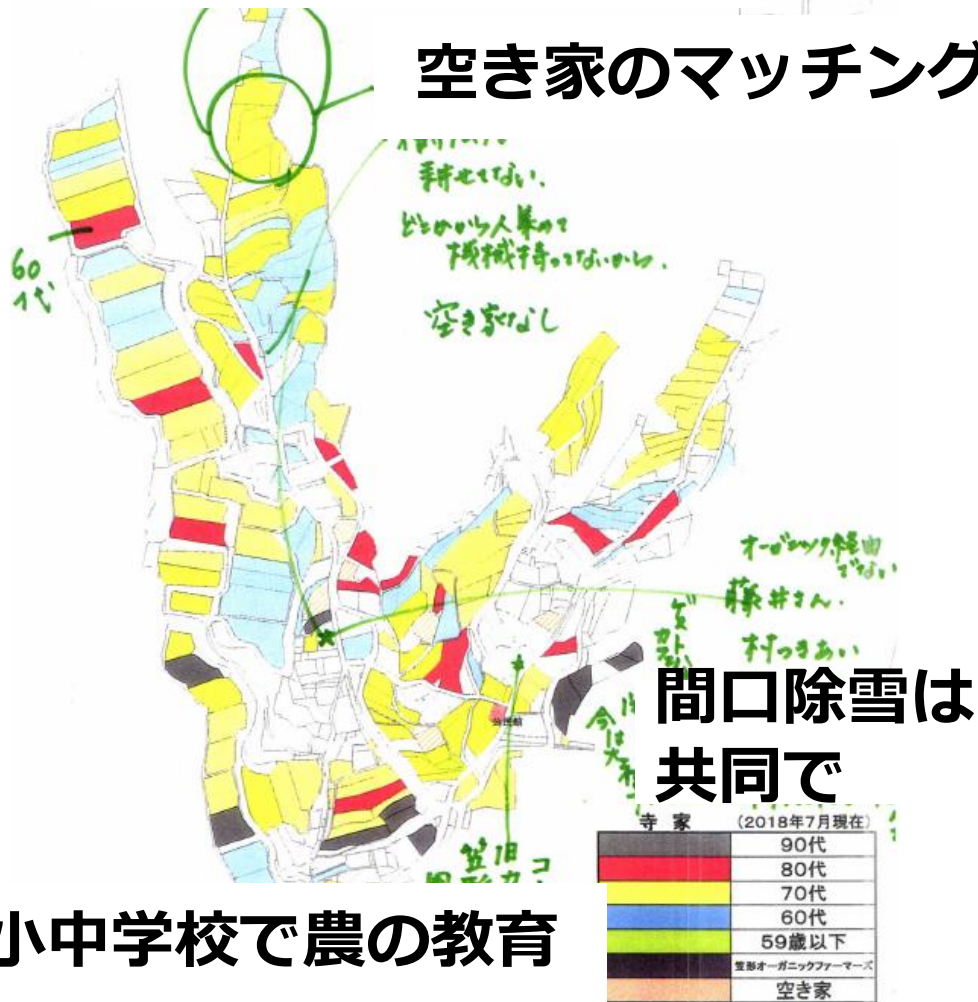
- ・ **農地管理：平場の圃場整備地による集約と受入
傾斜地をどうしていくか**
- ・ **果樹のブランド力：温暖化や豪雨多発で大丈夫？
水稲の機械更新、水稲・野菜の有機転換は？**
- ・ **UIターンはどうやってできた？
都市農村交流や関係人口は？**
- ・ **空き家はどうする？**
- ・ **除雪は大丈夫？**
- ・ **お年寄りの足や子どもたちの足は大丈夫そう？**

10年後の理想像を描こう
どこがどうなっていたらよいか

傾斜地にも新規就農

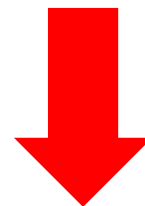


空き家のマッチング



小中学校で農の教育

地図の上に
おおまかな5年後
の理想像を書こう



数が多ければ
投票で絞ろう

理想像を実現するストーリーをつくろう



耕作者リストを熟読し、
キーパーソンを想定してゆく。

いつまでに 誰が何をする

5年後

RMO
が

空き家マッ
チング

3年後

親と
学校が

農の教育

2年後

有志
と市が

空き家片付
け・改修

1年後

町内会
とweb
得意な
住民

空き家現況・
意向調査

理想像へのストーリーに名前を付けよう

雪と農を満喫できる子育てならここ！

空き家イキイキ
プロジェクト

5年後

RMO
が

空き家マッ
チング

子育て就農者の
住まい応援

3年後

親と
学校が

農の教育

農ある子育て
プロジェクト

2年後

有志
と市が

空き家片付
け・改修

1年後

町内会
とweb
得意な
住民

空き家現況・
意向調査

RMO設立

3つのテーマと横つなぎ
安定的な運営財源